

平塚の石仏めぐり

19. 下島・大島編



大島 正福寺 下大曲型庚申塔

下島・大島の石仏

下島・大島は市域の北部に位置し、北から歌川、笠張川（旧玉川）、北西から渋田川の三川が大島の土安橋で合流し、横内との境を南流します。また渋田川に沿って旧大山道が通っています。天保年間の戸数は下島 37 戸、大島 67 戸で、現在も農業地帯ですが、住宅や倉庫が増え変貌しつつあります。

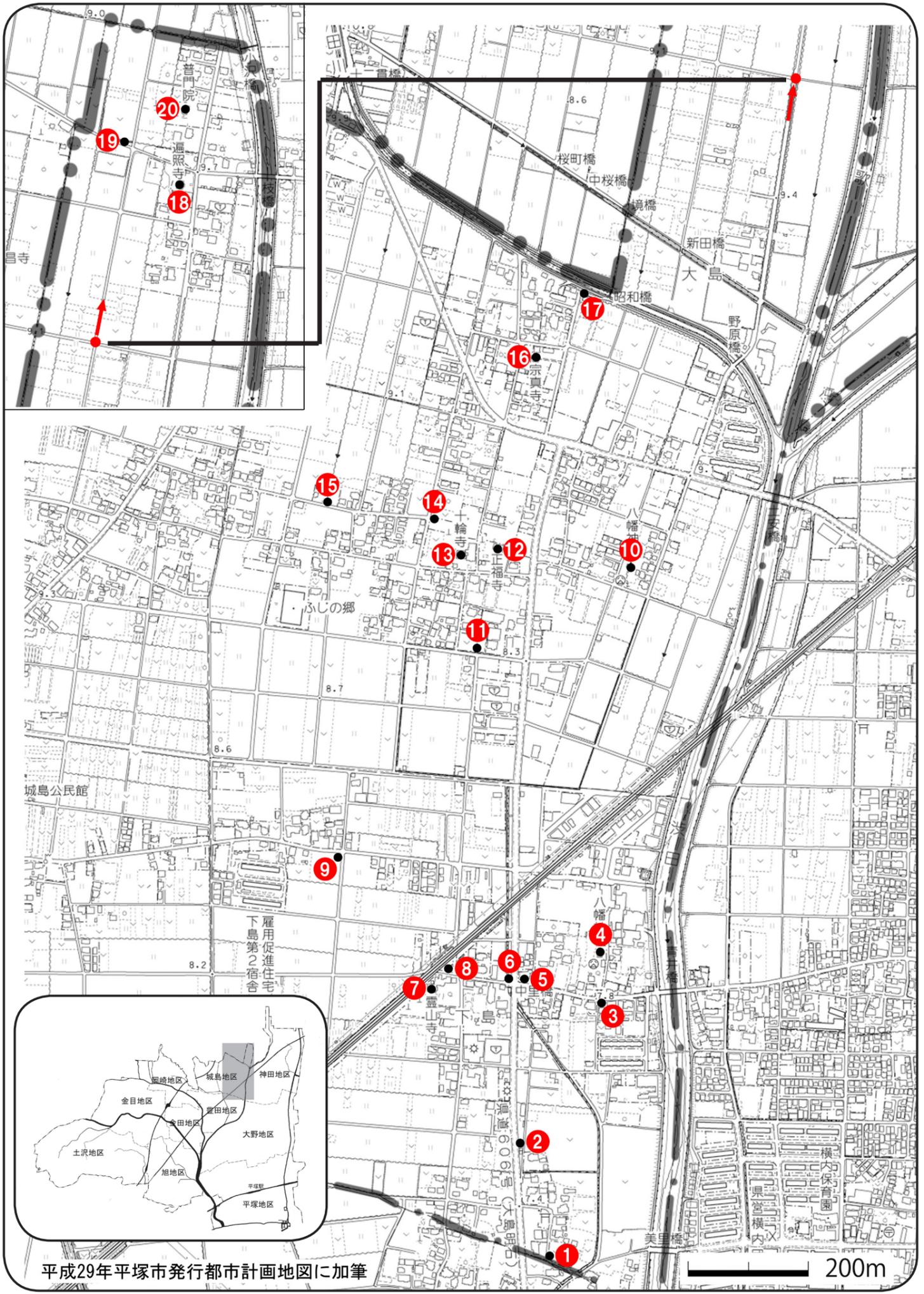
石仏は特徴のある多様なものを見ることができます。

下島の靈山寺には「岩船地藏念佛供養」と銘のある享保 5 年 (1720) 造立の岩船地藏、道標を兼ねた兜巾型の二十三夜塔があります。境内の淡島社は安産、病氣平癒に効験があるとされ、社前に針供養碑、市内唯一の百度石があります。

大島の正福寺の四臂青面金剛は下大曲型と通称され庚申塔では市内最古の明暦 2 年 (1656) 造立で県指定文化財です。もう一基の駒型三猿塔は「為庚申供養…」とある寛文 3 年 (1663) 造立で龍前院型と呼ばれています。また木祠内に延享元年 (1744) 造立の弁才天坐像は市内で唯一の弁才天石像です。大島の十輪寺にある馬頭観音は元文 6 年 (1741) 造立で三面六臂の刻像は市内で 5 基のみです。

道祖神は下島（下庭、上庭、西庭、四ツ家）、大島（南、東、枝、西）の各々にあり、文字碑が多い地区です。

大島 八幡神社前の東の道祖神は単体像で「光明真言供養尊」の銘があり珍しいものでしたが、消失してしまいました。



平成29年平塚市発行都市計画地図に加筆

下島・大島の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	下島路傍	下島 92	道祖神
2	下島三叉路	下島 687	道祖神
3	八幡神社前	下島 512	二十三夜塔、観音・巡拝塔・庚申塔
4	八幡神社	下島 625	手水石・水神、庚申塔、庚申塔・道標、石祠
5	下島十字路	下島 643	道祖神
6	下島路傍	下島 643	地藏
7	靈山寺	下島 384	百度石、手水石、針供養塔、六地藏、岩船地藏、地藏・念仏供養塔、二十三夜塔・道標、弘法大師、名号塔
8	靈山寺前	下島 384 北	道祖神
9	下島十字路	下島 179	道祖神、観音、道標
10	八幡神社	大島 718	光明真言塔、水神
11	大島南路傍	大島 393	道祖神
12	正福寺	大島 813	庚申塔、弁才天、読誦塔他
13	十輪寺	大島 815	馬頭観音、宝篋印塔、徳本名号塔他
14	大島南路傍	大島 821	道標
15	大島南路傍	大島 72	道祖神、庚申塔
16	宗真寺	大島 913	結界石、庚申塔、疱瘡神他
17	大島北路傍	大島 926 北	道祖神
18	遍照寺	大島 1825	石祠、庚申塔
19	大島枝路傍	大島 1617	道祖神、庚申塔
20	普門院	大島 1361	五輪塔、六地藏他

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和 3 年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け
 石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。
 また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（19. 下島・大島編）発行日：令和 6 年 4 月
 編集：石仏を調べる会
 発行：平塚市博物館
 住所：神奈川県平塚市浅間町 12-41
 電話：0463-33-5111

下島八幡神社前の石仏 (地図番号③)

下島八幡神社前、鳥居向い側の民家の塀下をくり抜き2基の石塔が安置されています。

巡拝塔庚申塔 正面上部に如意輪観音の刻像があり、その下に「西国秩父坂東供養 庚申供養」と刻まれています。左面に「宝暦十二壬午九月十五日 相州下島村」(1762)とあります。

下島と大島にある巡拝塔はこの1基だけになります。巡拝塔造立の多かった18世紀後半に、庚申供養と合わせて造立されています。

二十三夜塔 正面に「廿三夜待供養塔」、右面に「文化十四丁丑三月吉旦」(1817)と銘があります。二十三夜待は民間信仰のひとつで旧暦の23日の月の出を待ち、祀る行事で参加した人々が造立しました。市内には8基あり、下島にそのうち2基があります(下島八幡神社と霊山寺)。



左 巡拝塔庚申塔(宝暦12年)、右 二十三夜塔(文化14年)

下島八幡神社の石仏 (地図番号④)

神社本殿裏手の石仏群の中に2基の庚申塔が並んでいます。神社前の1基も合わせると、下島地区の庚申塔全3基がここにあることになります。

庚申塔 元禄7年(1694)造立。板駒型で六臂青面金剛と三猿が彫られた庚申塔で、この時期に多い像容です。右上に三叉鉞、右中に宝剣、右下に矢、左上に宝棒、左中に宝輪、左下に弓を持っています。造立から300年を超えています。像、銘ともにしっかりと残っています。

庚申塔道標 総高111cmの笠付型庚申塔で道標も兼ねている石塔です。安永7年(1778)造立、青面金剛はなく、文字と三猿が刻まれています。また、正面に「田村道」、右面に「大山道」、左面に「ひら塚道」と銘があります。現在は八幡神社境内に安置されていますが、元々は下島交差点あたりに位置していたものと推測されます。



庚申塔(元禄7年)



庚申塔道標(安永7年)

霊山寺の石仏 (地図番号⑦)

霊山寺は浄土宗の寺院です。本堂の南西側に、道標を兼ねた二十三夜待供養塔(文化9年(1812))や庚申講中によって建立された丸彫の六地藏(享保17年(1732))が、配置されています。

岩船地藏 小屋内で両手を合わせ合掌している丸彫の地藏坐像のお顔は目と口を閉ざし、深く物事を考えているようです。

台石に「岩船地藏念仏供養」「享保五子ノ歳五月」(1720)と刻まれ「當村老若男女」が建立しています。岩船地藏信仰は栃木県岩舟町(現、栃木市)の高勝寺が発端で、享保5年前後に三味線や太鼓などに合わせて踊る念仏が関東一円に大流行しました。

針供養碑 境内にある淡島社は女性の病気平癒、縁結び、子授け、安産祈願への信仰、また裁縫上達を願う者を加護する神としても知られています。針供養は一般に江戸時代から始められた女性の年中行事で、かつては3月13日に行われていました。この供養塔は昭和28年(1953)建立、市内で唯一のものです。



岩船地藏(享保5年)



針供養塔(昭和28年)

正福寺の石仏(1) (地図番号⑫)

大島山と号す臨済宗建長寺派の寺院で、本尊は釈迦如来です。薬師堂安置の木造薬師如来は推定平安時代後期の作で市指定文化財です。

庚申塔 入口の左側に庚申塔が2基並んでいます。どちらも白い苔に覆われ像容や銘文の判読がしにくい状態ですが貴重な庚申塔です。右の舟型は、四臂青面金剛と二猿で、四臂の持物は右手に剣と宝棒、左手に三叉戟と索を持ち、頭には三股冠とともに怒髪様のものが刻まれています。二猿は両膝を立て正面を向いて座り、左右の猿とも手を膝の上においています。碑正面に「相州大島郷為寒念佛供養奉造立為浮圖一基者也・・・」とあり、明暦2年(1656)寒念仏供養のために庚申塔が造立されました。同じ形式の石塔は寒川町下大曲神社(現、寒川神社の保管)が初出で、青面金剛が石塔として出現した最初期のものとされ、県内の7基すべてが県指定文化財となっています。これらは下大曲型と通称され、承応2年(1653)から明暦4年(1658)の5年間に造立されています。

左の板駒型は下部にふっくらとした三猿があり、猿は中腰の姿勢、腕と脚が並行で、手足が菱形をとらず、足が垂直などの特徴があります。同じ形のものが県内に20数基あり、茅ヶ崎市浜之郷の龍前院の明暦3年(1657)を初出とすることから龍前院型と呼ばれています。碑正面に「為庚申供養奉造立石浮圖一基者也・・・」とあり寛文3年(1663)の造立です。同型は市内で豊田打間木路傍などに4基あります。

正福寺の石仏(2) (地図番号⑫)



龍前院型庚申塔(寛文3年)



下大曲型庚申塔(明暦2年)

弁才天 境内右手の木祠に高さ46cm、浅浮彫で六臂の弁才天坐像が安置されています。

市内唯一の弁才天石像で、『新編相模國風土記稿』に境内白山社の「社辺に池あり 旱魃の時此の池に雨を祈れば験ありと云う」との関りが推測されます。

側面に「大辨才尊天 講中供養塔 延享元甲子年十二月己巳」(1744)と刻



弁才天(延享元年)

十輪寺の石仏(1) (地図番号⑬)

十輪寺は高野山真言宗の寺院で本尊は地藏菩薩です。

馬頭観音 下部の「地藏菩薩供養塔」「寛政十二庚申」(1800)と刻まれた供養塔の上に、市内で最も古い元文6年(1741)造立の三面六臂の馬頭観音がのっています。

正面に梵字の「カン」、頭上に宝馬を置き、柔和に見えるお顔を下向きにしています。六臂像は胸元で馬口印を結び、輪宝、三叉鉞や斧のような武器を持っています。右側に「大嶋村 岡崎勘右工門」と刻まれ、愛馬の供養と共に無病息災の願いがこめられています。



上 馬頭観音(元文6年) 下 地藏(寛政12年)

聖観音 優しい顔立ちの聖観音は宝冠に弥陀化仏を置き、右手は施無畏印、大きな左手で未敷蓮華を持っています。「観世音菩薩講中供養尊」「宝暦十庚辰年」(1760)と台石には18人の名前が刻まれ、観音講中の主尊として造立されています。

右側に明和5年(1768)造立の宝篋印塔があります。



聖観音(宝暦10年)

十輪寺の石仏(2) (地図番号⑬)

徳本名号塔 丸みのある独特な書体で正面に「南無阿弥陀佛」と刻まれ、「徳本」と花押は剥落が進んでいます。市内に27基造立されているうちの1基で、側面には「天保二年」(1831)、台石には「講中」の銘があります。

徳本上人が説いた南無阿弥陀仏の六字名号を唱えれば極楽往生できると信じ、鉦や木魚を激しく打ち鳴らす独特の念仏講が普及しました。



徳本名号塔(天保2年)

大島南路傍の文字庚申塔 (地図番号⑯)

正面に大きな文字で石柱いっばいに「庚申塔」と深く刻まれており力強さが感じられます。右面には「石橋供養」とあり石橋供養を兼ねた庚申塔です。台石には「西組講中」と小さく刻まれていて、大島西の庚申講中が建てたものと推察されます。弘化3年(1846)の造立です。

庚申塔は民家が散在する畑の中の道脇にあり、よく注意して見ていないと気づかずに通り過ぎてしまいます。



文字庚申塔(弘化3年)

宗真寺の石祠型庚申塔 (地図番号⑰)

宗真寺は曹洞宗の寺院で、本尊は釈迦如来です。

境内に入ると右手の壁際に、石祠に猿が彫られた庚申塔があります。

石祠の構造は流造に近く、正面左右の縦長の壁に膝を折った2匹の猿が正面を向いて陽刻されており、向かって左側は不聞猿、右側は不見猿です。

当会では庚申塔に種別しましたが、「庚申」の銘がないことから断定はできず山王社の可能性もあります。



石祠型庚申塔(年代不詳)

大島北路傍の単体道祖神 (地図番号⑱)

右に建つ双体道祖神と並んで、目、鼻、口や合掌している姿もしっかり確認できる大変保存状態のよい単体道祖神です。「延享二乙丑 正月十四日」(1745)と刻まれた文字もよく分かります。道祖神は、頭が大きく(三頭身くらい)それに対して足がとても小さいです。

双体道祖神とともに大島北で祀る道祖神です。



単体道祖神(延享2年)